

令和4年度 赤屋小学校 学校評価の結果について

1 児童アンケートと保護者アンケートの結果、及び教職員アンケートの結果を含めた検討会による改善案

本年度、本校では、「あかるくたくましい子（たくましい体）」「かんがえつくりだす子（確かな学力）」「やさしく思いやりのある子（豊かな心）」を目指す子ども像に設定し、学校教育目標「豊かな心をもち健康でたくましく生きる子どもの育成」、そして合言葉である「笑顔あふれる元気な赤屋小学校」の具現化を進めました。

その達成状況を確認するとともに次年度に向けての改善策を検討するために、1学期末と2学期末に『教職員アンケート調査』、2学期末に『児童アンケート調査』と『保護者アンケート調査』、3学期に『教職員による検討会』と『学校関係者評価委員会』を行いました。

以下では、児童と保護者のアンケート調査結果と改善策について、今年度の重点として取り組んだ「①確かな学力の定着」「②健やかな体と強い心の育成」「③人権を尊重し合う学校風土の構築」「④ふるさと教育（赤屋学）の充実」「⑤学校図書館活用教育の推進」の5点と、「⑥その他」に分類してまとめました。

なお、児童と保護者の評価の差が、20%以上の項目はピンク、約20%の項目は黄色で塗ってあります。また、「※」は成果や課題となった要因について、「⇒」は改善案を記しています。

【回答者数】 児童：23名/23名 保護者：21名/21名 教職員：11名/11名
 【回答内容】 1そう思う 2ややそう思う 3あまりそう思わない 4そう思わない 5わからない（保護者のみ）

①確かな学力の定着について（肯定的評価〔1そう思う 2ややそう思う〕の割合） ○＝成果、●＝課題

質問項目（児童用）	児童	質問項目（保護者用）	保護者
5 「〜ができるようになる」といって目標をもって勉強している。	91%	③ お子さんは、学校の勉強に意欲的に取り組んでいる。	82%
6 勉強時間には自分でしっかりと考えている。	96%		
7 考えたことや思っていることを進んで友達と話したり、発表したりしている。	96%		
8 先生や友達の話をしっかり聞いている。	95%		
10 少し難しいと思うことも、分かったり、できたりするまで、あきらめずがんばっている。	91%	⑭ 学校は、読み・書き・計算の基礎基本の定着に努めている。	100%
11 正しく、本を読んだり、漢字を書いたり、計算したりすることができている。	91%		
12 勉強や発表などで、ICTをよく使っている。	100%	⑯ 学校は、ICTを有効に活用している。	100%
13 ICTを使った勉強や発表、説明は分かりやすい。	100%		
14 ICTを使った勉強は楽しい。	100%		
16 家庭学習を毎日しっかりとしている。	87%	④ お子さんは、毎日の家庭学習の習慣が身に付いている。	61%

○保護者アンケートの「お子さんは、毎日の家庭学習の習慣が身に付いている。」以外は、肯定的評価が80%以上であった。

○ICT活用に関する質問項目については、児童アンケートと保護者アンケートともに肯定的評価が100%であった。

※ICT活用に関する教職員研修（市教委との連携、校内での自主的開催）や日常の学び合い・教え合い等の教職員の学び→学習活動に積極的に取り入れ、児童の学びに生かしてきた。

※出席停止の児童も、保護者・児童との共通理解のもと、オンラインで授業に参加することができた。

※学校便りやホームページ、学級便り等で活動の様子を伝えてきた。

☆令和5年度には中国地方放送教育研究大会（オンライン開催）において、伯太中学校区のすべての小・中学校がICTを活用した授業の様子を公開し、成果や課題等について発表することになっている。

●家庭学習については、児童と保護者の評価に開きがある。

⇒「『家庭学習』とはどういう学習か」「目安の時間はどれぐらいか」等について書かれた「家庭学習の手引き」を年度始めだけでなく学期始めや随時確認するとともに、学級便りや保健便り等を通して改めて保護者と共通理解を図る。

⇒授業と家庭学習が結びついた学習（反転学習等）や児童会活動とタイアップした「メディアコントロール週間」の取組を継続して行う。

⇒どこがよいノートなのか分かる評価のポイントを記載した「自学ノート」の例示（学級、学校、伯太中学校区）を継続し、児童がよりよい「自学ノート」のイメージをもって家庭学習に取り組めるようにする。

②健やかな体と強い心の育成（肯定的評価〔1 そう思う 2 ややそう思う〕の割合）

○＝成果、●＝課題

質問項目（児童用）	児童	質問項目（保護者用）	保護者
1 学校に、楽しく安心して登校している。	87%	① お子さんは、学校に進んで登校している。	91%
20 地域や家庭や学校で、進んで、元よく挨拶をしている。	91%	⑥ お子さんは、地域や家庭、学校で、明るく元氣な挨拶をしている。	73%
22 毎日、朝ごはんを食べて、登校している。	100%	⑧ お子さんは、毎日朝食をとって登校している。	91%
23 早寝・早起きをして、しっかりと（9時間ぐらい）寝ている。	82%	⑨ お子さんは、早寝・早起きに努め、睡眠時間を十分（9時間程度）とっている。	61%
24 学校や家庭で、元よく体を動かして遊んだり体づくりをしたりしている。	96%	⑩ お子さんは、学校や家庭で、元よく体を動かして遊んだり、体づくりに取り組んでいる。	92%
25 安来市や家庭での約束を守って、メディアコントロールに進んで取り組んでいる。	86%	⑪ お子さんは、安来市や家庭での約束を守って、メディアコントロールに進んで取り組んでいる。	52%

○保護者アンケートの「お子さんは、地域や家庭、学校で、明るく元氣な挨拶をしている。」「お子さんは、早寝・早起きに努め、睡眠時間を十分（9時間程度）とっている。」「お子さんは、安来市や家庭での約束を守って、メディアコントロールに進んで取り組んでいる。」以外は、肯定的評価が80%以上であった。

●保護者アンケートで肯定的評価が80%以上になっていない上記3項目については、児童と保護者の評価に大きな開きがある。

「お子さんは、地域や家庭、学校で、明るく元氣な挨拶をしている。」について

※形式的な挨拶（朝夕の職員室挨拶・全校朝礼などの挨拶）はできるが、来客への挨拶等、その場に応じた自発的な挨拶ができないことが多い。また、地域での挨拶ができていないこともある。

※保護者アンケートにおいて、「わからない」の評価が見られた。

⇒「挨拶の意義・相手意識等を改めて児童に伝える」「教職員も積極的に挨拶する（手本を示す）」「児童会活動による自発的な取組月間を設ける」「来年度のPTA総会で、生徒指導担当教員が状況を伝え、家庭での挨拶等、保護者の協力を得る」「幼いときから挨拶が習慣化できるよう、こども園とも連携して取り組む」等により改善を図る

「お子さんは、早寝・早起きに努め、睡眠時間を十分（9時間程度）とっている。」「お子さんは、安来市や家庭での約束を守って、メディアコントロールに進んで取り組んでいる。」について

※十分な睡眠時間をとることができない理由として、習い事が終わる時間の関係の他、生活習慣調査の結果からメディア接触の時間が多いことが挙げられる。

※毎年、メディアに関しては課題に挙がる。「メディアコントロール週間」や「ノーメディアデー」等の取組を行っているが、結果はよくならない。

⇒養護教諭と協力し、メディアが身体に及ぼす影響や対処法などについての学習を行う。

⇒児童会活動による家庭と協力した取組や、メディアに関する専門講師を招いてのPTA研修会の継続等、保護者と連携した取組を続ける。

⇒メディア接触の時間は家庭での生活時間によるところが多いため、「オンラインゲーム」や「動画視聴」等の家庭でのルール作りについて引き続き保護者に協力を依頼する。

●児童アンケートの「学校に、楽しく安心して登校している。」も、保護者アンケートの「お子さんは、学校に進んで登校している。」も、ともに100%になっていない。

⇒児童の日常生活や教育相談での様子等から引き続き状況把握をし、声かけ等に心がけるとともに、校内不登校対策委員会で対策を検討し、保護者と連携して課題解決を図っていく。

③人権を尊重し合う学校風土の構築（肯定的評価〔1 そう思う 2 ややそう思う〕の割合）

○＝成果、●＝課題

質問項目（児童用）	児童	質問項目（保護者用）	保護者
2 学校に仲のよい友達がいる。	96%	② お子さんは、学校に仲のよい友達がいる。	91%
3 縦割り班遊びや運動会などの違う学年の人と一緒にする活動は楽しい。	95%		
4 係や当番、委員会の仕事などで、人の役に立っている。	96%		
18 先生方は、自分のよいところや成長したことを褒めてくれている。	91%	⑪ 学校は、お子さんのよいところや成長したところを認め、伸ばすようにしている。	95%
19 先生方は、困ったことがあった時に、相談のつてくれたり、解決してくれたりしている。	82%	⑫ 学校は、お子さんのトラブルや悩みに対して適切に対応している。	85%
21 友達や家族に、素直に「ありがとう」や「ごめんなさい」を言っている。	96%	⑦ お子さんは、友達や家族に、素直に「ありがとう」や「ごめんなさい」を伝えている。	74%

○保護者アンケートの「お子さんは、友達や家族に、素直に『ありがとう』や『ごめんなさい』を伝えている。」以外は、肯定的評価が80%以上であった。

※高学年が、下学年の世話をしたり遊んだりすることが日常的に見られる。

※児童会活動において、あいさつ週間、全校遊び、図書フェスティバル等を企画して児童の関わりの場を作っている。

※人権週間では、集中的に関連の授業や活動（人権標語作り）に取り組んでいる。

⇒児童同士の関係のよさがすべての教育活動で効果を発揮している。相手を思いやれる活動や行動を意識し、継続・進化した取組を行う。また、児童を中心に据えた保護者との連携を大切にしていく。

- 児童アンケートの「先生方は、自分のよいところや頑張ったことを褒めてくれている。」「先生方は、困ったことがあった時に、相談にのってくれたり、解決してくれたりしている。」「友達や家族に、素直に「ありがとう」や「ごめんなさい」を言っている。」に「あまりそう思わない」や「そう思わない」の評価が見られた。

⇒改めて児童とゆとりをもって向き合える時間の確保に努める。(人員確保の要望、業務改善の推進)

- 保護者アンケートの「学校は、お子さんのよいところや頑張っているところを認め、伸ばすようにしている。」「学校は、お子さんのトラブルや悩みに対して適切に対応している。」「お子さんは、友達や家族に、素直に『ありがとう』や『ごめんなさい』を伝えている。」に「あまりそう思わない」や「そう思わない」の評価が見られた。

⇒学校で伸ばすようにしていることや対応していることについて、家庭訪問や個人懇談等の際にさらに保護者に分かりやすいように伝える。また、家庭で困っておられることがあれば、学校やスクールカウンセラー、関係諸機関との相談の機会を確保し、連携して解決が図れるようにする。

- 保護者アンケートの「お子さんは、学校に仲のよい友達がいる。」「学校は、お子さんのトラブルや悩みに対して適切に対応している。」に「わからない」の評価が見られた。

⇒個人懇談で、保護者に友達関係について伝えたり、家庭での様子を聞いたりしながら、児童の様子が捉えられるようにしていく。

④ふるさと教育(赤屋学)の充実(肯定的評価〔1そう思う 2ややそう思う〕の割合) ○=成果 ●=課題

質問項目(児童用)	児童	質問項目(保護者用)	保護者
15 赤屋のことを知ったり、地域の方と体験学習をしたりすることは楽しい。	100%	15 学校は、地域の「ひと・もの・こと」に関わった学習を進めている。	100%

○児童、保護者とも、肯定的評価が100%であった。

※今年度は「赤屋小学校開校50周年記念事業」として記念式典・記念講演、記念神楽公演が行われた。記念式典・記念講演前に行われた「学習発表会」では、すべての学年が「ふるさと赤屋の魅力(すばらしさ、よさ、自慢)」を感じさせる発表を行った。

※地域や保護者の方にご理解とご協力をいただき、全学年が「赤屋のビジョン」に向かったふるさと教育「赤屋学」を実施することができた。地域の皆様や保護者様に温かく学校を見守っていただき、「赤屋のビジョン」に向かったふるさと教育「赤屋学」を実施することができた。

※活動意義を考えた計画的な活動の実施とともに、学校便りやホームページ、学級便り、どじょっこテレビなどによる情報発信を行った。

⇒引き続き活動意義を考えた計画的な活動を実施するとともに、取組について積極的に情報発信していく。

⇒今後も、地域・赤屋交流センターと連携し、講師の後継者確保や実施内容等に関して適宜見直しを行いながら、意義のある活動を続けていく。

⑤学校図書館活用教育の推進(肯定的評価〔1そう思う 2ややそう思う〕の割合) ○=成果 ●=課題

質問項目(児童用)	児童	質問項目(保護者用)	保護者
9 分からないことがあった時には、図書館を利用して進んで調べている。	74%	5 お子さんは、読書の習慣が身に付いている。	43%
17 進んで読書をしている。	83%		

●児童と保護者の評価に大きな開きがある。

※調べる学習をする際に、ICT活用教育の推進からタブレットを使って調べることが増え、図書館利用が減っている。

⇒学習の目的に応じて改めてICTと図書を活用をバランスよく設定するとともに、それぞれのよさを生かせるようにする。

※休み時間に図書室で読書をする児童はほとんどいない。⇒元気よく体を動かして遊んでいる。

⇒読書の時間を学級で工夫して作り出す。〔本の借り替えを積極的に行う、宿題に読書(家読)を入れる等〕

※保護者アンケートにおいて、「わからない」の評価が見られた。

⇒家庭生活において、メディア利用時間が多く、図書の時間が確保されていない現状がみられるので、親子読書等の協力を保護者をお願いして、読書の機会を家庭生活の中でも設けられるようにする。

⇒今年度の学校経営の重点の一つに掲げている「年間3500冊を目指そう」は達成しているため、児童の読書の状況について、学校便りやホームページ、学級便り等で改めて伝えていく。(3/6現在3621冊)

質問項目 (保護者用)	保護者
⑫ 学校は、経営方針に基づき教育を進めている。	100%
⑬ 学校は、ホームページ、学校・学級便り、懇談会、学習発表会などでお子さん達の様子を分かりやすく伝えている。	100%
⑲ 学校は、安心安全で学びやすい環境の整備に努めている。	100%
⑳ 学校は、来校者に対して適切に対応し、行きやすい雰囲気作りに努めている。	100%
㉑ 学校は、授業公開日や学級懇談会の回数・内容を適切に計画し、行っている。	100%

○すべての項目において、肯定的評価が100%であった。

⇒肯定的評価は100%だが、「1 そう思う」の割合は昨年度より減っているため、引き続き、保護者、地域との連携を図り、学校の教育活動へのご理解とご協力をいただけるように努めていく。

⇒開校50周年を越えて老朽化がやむを得ない学校環境については、教育委員会とも連携しながら整備を継続していく。

2 保護者からの自由記述 (○肯定的意見, ●改善が必要な意見)

○私も子ども初めての学校生活のスタートで、期待と不安がある中でしたが、とても親身・親切に対応してくださいました。小規模ですが、メリット、デメリット含め、子ども達がいろいろ体験し、学び、成長していけることを願っております。

○転校して不慣れなところもあったみたいですが、毎日楽しく学校で過ごしている様子です。なかなか勉強習慣を身に付けるのに大変ですが(兄基準の行動となってしまうため)、本人のやる気はあるみたいですので、引き続きご指導いただければと思います。

○転校して間もないですが、毎日楽しくやっている様子です。担任の先生をはじめ丁寧に指導いただいております。感謝しております。

○⑱ [学校は、お子さんのトラブルや悩みに対して適切に対応している。] について：本人にも聞いてみましたが、特にトラブルや悩みがあったことがなく…です。長い人生ですので親としてもしっかり見守っていきたいと思います。

●⑩ [学校は、ICT(タブレットや視聴覚機器)を有効に活用している。(授業、発表、説明など)] について：子どもがクローズドブックを使っていることで、インターネットの基本を知らないことに気がきました。インターネットは、1・2時間使用すること一旦シャットダウンする。スリープにする場合でも、続きは見ない。アイコンを閉じるなど。でないと、眼の為に(視力に)よくないです。

⇒メディアリテラシーやメディアモラル等についての学習を継続して行う。また、養護教諭と協力し、メディアが身体に及ぼす影響や対処法などについての学習を行う。

3 学校関係者評価委員会の評価 (○肯定的意見, ●改善が必要な意見, ◇改善案・その他の意見)

<R5.3.7(火)学校評議員等7名>

○図書貸出し年間3500冊を達成できているのは、すごいと思う。

○保護者の家庭学習についての評価が低いが、全校児童23人中12名が学童を利用しており、学童で宿題を済ませて家庭に帰っている。そのため、家で宿題をしておらず、「毎日の家庭学習の習慣が身に付いていない」という評価につながっているのではないかと。

○親子読書やメディアコントロールカードなどの取組はやってみてよかったので、ぜひ継続してほしい。

●挨拶ができていないわけではない。基本はできていると思う。しかし、朝の挨拶はよくない。疲れ気味でテンションが低い。

※早寝早起きができていないのではないかと。

※メディア利用と関わっているのではないかと。

●ふるさと教育についての児童アンケートで「地域の方と体験学習をしたりすることは楽しい」とあるが、どのあたりから楽しいと思っているのか分からない。

※赤屋交流センターにお世話になっている活動はもちろんのこと、もりふれ倶楽部にお世話になっている森林教室での体験学習も考えられる。また、盆踊り、夏祭り、ふるさとクラブ、わかばと交流会、ろここカフェなどもあるのではないかと。

◇伯太では、新しいものを使う・作るのではなく、自然を生かし、体験することを大切にするとよい。

◇ろここカフェへの参加を継続してほしい。

◇小学生と中学生が関われる機会、中学生が小学生のお世話をする機会が増えるとよい。

●米作り活動…学校では手植え、手刈りをしているが、一般では機械を使って稲作を行っている。現状に則さないと赤屋地域で農業をする人がいなくなってしまう。機械を使って行ってみたいかどうかという意見もある。

●メディアコントロールが難しいのは、遊ぶところがない、友達の家まで遠い、共働きの多い等の地域性とも関わっているのではないかと。

※赤屋で遊び場を作ることも考えたが、交通の便に課題があり、実現が難しい。

◇不登校(傾向)児童…自己肯定感が低く、どう高めるかが大事だと研修会で聞いた。保護者が家庭での食事作り(食育)を頑張ることも大切だと思う。

◇先日松江市内の公民館で、「先生の一言で将来が決まった」という話を聞いた。心に残る話だった。